

スポーツ健康学部カリキュラム <2018年度以降入学生>

		1年次	2年次	3年次	4年次
総合教育科目 (28単位以上)	外国語科目 (8単位以上) 必修選択 (8単位以上) ※ERP(P.76参照) 単位も含む	(春) 総合英語 I (a) [1] (春) 総合英語 II (a) [1] (秋) 総合英語 I (b) [1] (秋) 総合英語 II (b) [1] (春) 日本語 1-I [1] (秋) 日本語 1-II [1] (春) 日本語 2-I [1] (秋) 日本語 2-II [1] <small>※外国人留学生のみ対象</small>	(春) 総合英語 III (a) [1] (春) 総合英語 IV (a) [1] (秋) 総合英語 III (b) [1] (秋) 総合英語 IV (b) [1] (春) 日本語 3-I [1] (秋) 日本語 3-II [1] <small>※外国人留学生のみ対象</small>		
		(春) 英語コミュニケーション I (a) [1]	(秋) 英語コミュニケーション I (b) [1]		
視野形成科目 (20単位以上)	必修 (4単位)	(春) スポーツ健康学入門 [2] (春) スポーツとキャリア形成 [2]			
	必修選択 (16単位以上)	(春) 経営学 [2] (春) 法学 (日本国憲法) [2] (春) コミュニケーション論 [2] (春) 情報リテラシー I [2] (春) 統計学 I [2] (春) 数学 [2] (集中) スポーツ健康学特講 [2]	(春) 障害者福祉論 [2] (春) 音楽文化論 [2] (春) キャリアデザイン論 [2] (春) JUDO [2] (春) オリンピック・パラリンピックを考える [2] (春) アスリートキャリア論 [2] (集中) スポーツ健康学海外演習 [2]	(秋) 情報リテラシー II [2] (秋) 人間とスポーツ [2] (秋) スポーツレクリエーション論 [2] (秋) 統計学 II [2] (秋) 女性とスポーツ [2]	(秋) 生命倫理 [2] (秋) 基礎科学 [2] (秋) 哲学 [2] (秋) 多摩地域形成論 [2]
専門基礎科目 (23単位以上)	講義科目 コース共通 必修 (22単位)	(春) 生理学 [2] (春) 機能解剖学 A [2] (春) スポーツ哲学 [2] (春) スポーツ社会学 [2] (秋) ヘルスデザイン論 [2] (秋) スポーツ心理学 A [2] (秋) スポーツ史 [2] (秋) スポーツビジネス論 I [2] (秋) スポーツコーチング論 A [2]	(春) 運動生理学概論 [2] (秋) スポーツマネジメント論 [2]		
	実技科目 コース共通 必修 (1単位)	(春) スポーツ実習入門 [1]			
専門基礎科目 (12単位以上)	コース共通 必修選択 (12単位以上)	(春) スポーツトレーニング論 I [2] (秋) 衛生学 [2] (秋) スポーツ法学 I [2] (秋) 機能解剖学 B [2]	(春) スポーツ栄養学 [2] (春) スポーツバイオメカニクス [2] (春) 体力測定・評価論 [2] (春) 学校保健 [2] (春) スポーツ産業論 [2] (春) スポーツビジネス論 II [2] (秋) 予防医学概論 [2] (秋) 公衆衛生学 [2]		
専門教育科目 (84単位以上)	専門科目 (50単位以上) 「専門科目Ⅰ」・「専門演習Ⅰ」の合計	ヘルスデザインコース			
		(秋) 運動療法総論 [2] (秋) スポーツコンディショニング論 I [2] (秋) アスレティックトレーナー概論 [2] (秋) Health and Exercise Sciences [2] (秋) Strength Training [2]	(春) リハビリテーション概論 [2] (春) 健康と疾患 [2] (春) スポーツコンディショニング論 II [2] (春) スポーツリスクマネジメント [2] (春) テーピング・コンディショニング指導論 I [1] (秋) テーピング・コンディショニング指導論 II [2]	(春) 運動処方・負荷テスト [2] (春) スポーツ医学 A [2] (春) 生活習慣病と身体活動 [2] (春) 運動生理学 [2] (春) アスレティックリハビリテーション [2]	(秋) アスレティックリハビリテーション II [2] (秋) スポーツ医学 B [2]
		(春・秋) ジョギング・ウォーキング実習 [1] (春) フィットネス・トレーニング実習 [1]	(秋) エアロビクス運動実習 [1] (秋) 体力測定・評価実習 [1]	(通) 健康増進施設実習 [2] (通) スポーツ現場実習 A [4] (通) スポーツ現場実習 B [4] (春) スポーツリハビリテーション実習 [1]	(秋) 運動負荷テスト実習 [1] (秋) 運動学実習 [1] (秋) スポーツ医学実習 [1]
		スポーツビジネスコース			
必修選択 (選択したコースから20単位以上選択)	(春) レジャー論 [2] (春) スポーツ文化論 [2] (春) 地域スポーツ経営論 [2] (秋) スポーツ組織論 [2] (秋) スポーツ経済論 [2] (秋) スポーツメディア論 [2] (秋) Sport Consumer Behavior [2]	(春) スポーツと政治 [2] (春) マーケティングリサーチ論 [2] (秋) スポーツ行政論 [2] (秋) スポーツ法学 II [2] (秋) スポーツ取材論 [2]	(春) スポーツビジネス論 III [2] (春) マーケティングリサーチ実習 [1]	(秋) スポーツジャーナリズム論 (新聞) [2] (秋) スポーツジャーナリズム論 (放送) [2] (秋) スポーツ消費者行動論 [2] (秋) スポーツ政策論 [2] (秋) マーケティングリサーチ演習 [2]	
スポーツコーチングコース					
	(春) トップアスリート論 [2] (春) 保健体育概論 [2] (秋) スポーツトレーニング論 II [2]	(春) スポーツ運動学 [2] (春) スポーツ戦術論 (ハンドボール) [2] (春) スポーツ戦略・戦術論 [2] (秋) スポーツコーチング論 B [2] (秋) スポーツ心理学 B [2] (秋) スポーツ戦術論 (サッカー) [2]			
	(春) ダンス実習 [1] (秋) ダンス指導論演習 [2] (春) 柔道実習 [1] (秋) 柔道指導論演習 [2] (春) 剣道実習 [1] (秋) 剣道指導論演習 [2]	(春) 器械運動実習 [1] (秋) 器械運動指導論演習 [2] (春) 体づくり運動実習 [1] (秋) 体づくり運動指導論演習 [2] (春) サッカー実習 [1] (秋) サッカー指導論演習 [2] (春) バドミントン実習 [1] (秋) バドミントン指導論演習 [2] (集中) 野外教育実習 (スノー) [1] (集中) スポーツコーチング海外演習 [2]	(春) バレーボール実習 [1] (秋) バレーボール指導論演習 [2] (春) テニス実習 [1] (秋) テニス指導論演習 [2] (春) ソフトボール実習 [1] (秋) ソフトボール指導論演習 [2] (春) バスケットボール実習 [1] (秋) バスケットボール指導論演習 [2] (集中) 野外教育実習 (マリン) [1] (集中) 野外教育実習 (キャンプ) [1]	(春) 陸上競技実習 [1] (秋) 陸上競技指導論演習 [2] (春) スイミング実習 [1] (秋) スイミング指導論演習 [2] (春) ハンドボール実習 [1] (秋) ハンドボール指導論演習 [2] (春) 青少年指導実習 (陸上) [1] (秋) 青少年指導実習 (サッカー) [1] (集中) 野外教育実習 (キャンプ) [1]	
選択		(通) 専門演習 I [4]	(通) 専門演習 II [4]	(通) 専門演習 III [4]	

(春) = 春学期科目 (通) = 通年科目 * [] = 単位数
(秋) = 秋学期科目 (集中) = 集中科目

※開講期は年度によって変更になる可能性があります。

5. 履修上限単位数

授業は、授業時間以外の学修を行うことを前提に実施されており、単位は週あたりの学修時間によって決められています。そのため、履修登録単位数には上限が設けられており、無制限に単位を修得できるわけではありません。1年間に履修可能な登録単位数は次のとおり定められていますので、十分注意して登録してください。

教職・資格科目の履修の有無により登録単位数の上限は異なります。下の表を確認し、十分注意して登録してください。

(1) 履修登録単位の上限

◆ 教職・資格科目を履修しない場合の履修上限単位数（2013年度以降入学生）

科 目		学 年			
		1 年	2 年	3 年	4 年
総合教育科目	年 間	42	42	42	42
専門教育科目					
再履修科目（前年度未履修単位含む）		0	+7	+7	+7
再履修含む場合の上限単位数		42	49	49	49

- 第4年次においては総合教育科目・専門教育科目より4単位以上修得しなければなりません（第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も含みます）。
- 2年生以降の再履修科目については、7単位を上限とします。
- 半期毎の履修登録単位については上限を設けませんが、次頁を目安にして、一方の学期に履修が偏りすぎることのないよう計画的な学修計画を立ててください。

◆ 教職・資格科目を履修する場合の履修上限単位数（2013年度以降入学生）

科 目		学 年			
		1 年	2 年	3 年	4 年
総合教育科目	年 間	42	42	42	42
専門教育科目					
再履修科目（前年度未履修単位含む）		0	+7	+7	+7
教職科目		+10	+24	+24	+24
資格科目 （司書・社会教育主事・学芸員など）		+12			
教職・資格・再履修含む場合の 上限単位数		64	66	66	66

- 第4年次においては総合教育科目・専門教育科目より4単位以上修得しなければなりません（第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も含まれます）。
- 資格科目（図書館司書・学校図書館司書教諭・社会教育主事・社会教育士・博物館学芸員）については、「教職・資格・再履修を含む場合の上限単位数」内であれば、上限はありません。
- 1年生は、教職科目10単位（資格科目12単位）を上限とします。
- 2年生以降の再履修科目については、7単位を上限とします。
- 半期毎の履修登録単位については上限を設けませんが、次の表を目安にして、一方の学期に履修が偏りすぎることのないよう計画的な学習計画を立ててください。

(2) 半期履修上限の目安

【春学期】22単位 【秋学期】22単位

- ◆ 上記単位数はあくまで上限の目安です。どちらか一方の学期に履修単位が集中しないよう計画をたて、上記の目安を参考にして、春学期科目単位数+秋学期科目単位数+通年科目単位数が42単位を超えないように履修してください。

- ◆ 履修単位の計算方法は以下のとおりです。

$$\boxed{\begin{array}{c} \text{春学期授業科目} \\ \text{の履修単位数} \end{array}} + \boxed{\begin{array}{c} \text{秋学期授業科目} \\ \text{の履修単位数} \end{array}} + \boxed{\begin{array}{c} \text{通年授業科目} \\ \text{の履修単位数} \end{array}} \leq \boxed{\begin{array}{c} \text{年間履修上限} \\ \text{単位数} \end{array}}$$

(3) 再履修とは

以下に示す条件において、その不足単位数を補填するために履修することを言います。

- 履修登録をした科目を履修した結果、不合格（D及びE評価）となった単位数
- 履修登録上限単位数まで履修登録せず、未登録となった単位数

再履修単位	1年次	(1年次担当単位数合計) - (修得済卒業所要単位数) 42単位
	2年次	(1年次担当単位数合計) - (修得済卒業所要単位数) 42単位
	3年次	(1・2年次担当単位数合計) - (修得済卒業所要単位数) 84単位
	4年次	(1・2・3年次担当単位数合計) - (修得済卒業所要単位数) 132単位

(4) 卒業保留者の注意点

単位不足で卒業保留となった者は、次頁の表のとおり、未修得単位数により登録可能単位数が異なるので注意してください。

未修得単位 24 単位以内	年間登録可能単位数 42 単位 (教職・資格科目を含める場合は 66 単位)
未修得単位 25 単位以上	年間登録可能単位数 49 単位 (教職・資格科目を含める場合は 66 単位)

6. 時間割作成手順

◆ 1年生の時間割は以下のような手順で作成しましょう。

※あくまでも参考です。その年の開講曜日・開講時限(時間割)にならって履修してください

(1) 「スポーツ健康学入門」・「スポーツ実習入門」を入れる。

はじめに、クラス指定されている上記必修科目を時間割表に埋め込んでください。

(2) “外国語科目”を入れる。

「総合英語」で外国語科目を履修する場合は、クラスの指定に従って、時間割表に埋め込んでください。会話力を磨きたい方や、将来留学を考えている方は「英語コミュニケーション」やERP科目(P.79参照)を履修することをお勧めします。外国語科目群の中で、2年次までに8単位以上修得できるように計画して履修してください。

<外国人留学生>

外国人留学生は、卒業までに日本語6単位+英語2単位の計8単位を修得する必要があります。1年次は以下の表に従って履修してください。

日本語	英語
4科目(4単位)必修 日本語1-I・1-II・2-I・2-II	2科目(2単位)選択 総合英語I(a)(b)・II(a)(b)・ 英語コミュニケーションI(a)(b)

※英語は2年次以降の履修でも可能です。

※「日本語」及び「総合英語」を履修する際は、指定されたクラスで授業を受けること。

(3) 必修科目を入れる。

視野形成科目の中にある「スポーツとキャリア形成」や必修に指定されている専門基礎科目(「生理学」、「機能解剖学A」、「スポーツ哲学」、「スポーツ社会学」、「ヘルスデザイン論」、「スポーツ心理学A」、「スポーツ史」、「スポーツビジネス論I」、「スポーツコーチング論A」)を時間割表に埋め込んでください。スポーツ健康学の基本的知識修得を目的としていますので、1年次にできるだけすべての科目の単位を修得し、2年次以降の学習の準備となるようにしてください。